

令和7(2025)年度 沖縄国際大学大学院入学者選抜試験
地域文化研究科 南島文化専攻 出題意図

【言語文化領域専門科目】

(前期)

南島文化専攻言語文化領域では、アドミッション・ポリシーで「言語文化領域においては、南島地域の言語および文学に強い関心を有する人物。または、日本の古典文学や近現代文学、国語教育学に強い関心を有する人物」を求めています。これに基づき、前期試験では専門科目の試験では日本文学、日本語学、琉球文学、国語教育学に関する基礎的な知識および日本語の論述能力を見る問題を出題しました。

(後期)

南島文化専攻言語文化領域では、アドミッション・ポリシーで「言語文化領域においては、南島地域の言語および文学に強い関心を有する人物。または、日本の古典文学や近現代文学、国語教育学に強い関心を有する人物」を求めています。これに基づき、専門科目の後期試験では日本文学、日本語学、琉球文学、国語教育学に関する基礎的な知識および日本語の論述能力を見る問題を出題しました。

【民俗文化領域専門科目】

2025（令和7）年度大学院入学者選抜試験問題は、上記の南島文化専攻・民俗文化領域のアドミッション・ポリシーで示された諸要素の有無を判断することを目的としています。

本専攻は、南島文化についての専門的な知識を系統的に深めるという特色をもっています。またそれと同時に、その学びを南島内だけにとどめるのではなく、周辺地域の文化に関する専門的な知識を身につけることの重要性も強調しています。

これを受けて今回の専門科目の課題では、南島の民俗文化に関する知識、ならびにそれを論じる上で必要となる民俗学や文化人類学についての基礎的な理解度を測ることを目的とした、入学者選抜試験の出題を行いました。

令和 7(2025)年度 沖縄国際大学大学院入学者選抜試験
地域文化研究科 南島文化専攻 出題意図

【先史・歴史文化領域専門科目】

【問1】史料読解

史料読解（候文→読み下し）を通して、文献史料を一次資料として扱える能力を測るものです。史料を日本語に直すだけでなく、内容構造（主語・目的語・内容）を把握できるか、和様漢文（候文）の慣用句を読めるか、など、古文・漢文混合文体の基礎読解、史料を「歴史情報」として読み取る能力の確認として課しています。

【問2】用語説明（200字）

用語説明を通して、各用語の具体的特徴（物質文化的・制度的・地域的）を説明できるか、それを歴史的文脈の中に位置づける力があるか。定義だけではなく、なぜ重要かを200字で表現できるか、という能力を測り、知識の定着度（時期・空間・内容）、簡潔な表現力（200字制限＝構成力）、用語を意味づける力を確認しています。

【問3】論述（1000字）

琉球・沖縄史の個別テーマを通して、アジア史的枠組みで再構成できるか、時期・変動・要因・結果などの四点を意識して論じられるか、その論理構成力（1000字で起承転結を作れるか）や史実の具体性と時期設定の正確さ、比較・連関の視野を測る判断材料としています。

【社会文化領域専門科目】

（1）の設問について…専門領域におけるキーワードの理解について問うための問題であり、以下の二つのテーマに関わるキーワードについて出題している。

①人間の安全保障および②積極的平和／消極的平和

上記2つのキーワードについては、南島文化専攻社会文化領域のアドミッションポリシーのなかから、「南島社会の抱える現代的な問題」との関連、とりわけ「沖縄戦」および安全保障と「基地問題」にかかわる重要な概念について問うことを意図したものである。

③教育の政治的中立および④社会に開かれた教育課程

上記2問については、教育社会学の観点に立ち、学校教育が有する代表的な課題に関する理論的な背景や現状について問うことを意図したものである。

（2）の設問について…日本復帰後の沖縄社会における意識構造の変化について、提示された図からその特徴を読み取れるか、また、そこでの変化の要因を沖縄現代史の理解と合わせて論述できるかを問うことを意図したものである。

令和7(2025)年度 沖縄国際大学大学院入学者選抜試験
地域文化研究科 南島文化専攻 出題意図

【外国語科目：日本語】

問題1 読解問題

【問1・問2】文脈に合う語句選択

文脈と論理の流れを的確に把握し、語彙・文法・意味関係を統合的に理解する力を測る。学術的文章を精読し、文構造の論理性を分析できるかを確認する。修士論文執筆に必要な学術日本語の精読力・構文理解力を評価する。

【問3】漢字の読み

学術文献を正確に読み解くための文字・語彙知識の正確さを評価する。研究資料の読解や文献調査の基礎となる文字運用能力を評価する。

【問4】内容一致

筆者の主張構造・比較観点・論理展開を把握し、内容を客観的に再構築する力を測る。部分的理解ではなく、全体的な論旨を読み解く批判的読解力・論理分析力を評価する。修士論文での先行研究理解・要約・比較分析能力の基盤を確認するものである。

【問5】意見記述（150字）

筆者の論点を踏まえ、自らの立場を簡潔に、かつ論理的に表現する力を測る。文化比較や価値観の多様性を踏まえた独自の視点構築力と論述の明確さを評価する。修士論文に求められる自分の主張を論理的に展開する力の初期段階を確認する。

問題2 時事読解

【問1～問4】内容理解

社会的・言語的テーマに関する実用文を分析し、情報を正確に整理・解釈する力を問う。データ・立場・主張の関係を読み取る実証的読解力・批判的分析力を評価する。修士論文で必要な資料読解・データ把握・論点整理の基礎的な能力を確認する意図がある。

【問5】意見記述（150字）

社会的テーマについて、文化比較を通して自分の立場を述べる論理的思考力と文章構成力を評価する。学術的根拠に基づいて意見を形成する姿勢を測る。修士論文執筆に欠かせない問題意識の形成力・自己主張の明確度を測る。

問題3 文法・文型選択

複雑な文型や語法の使い分けを理解し、文脈に即して正確に運用できる力を問う。南島文化をはじめとする言語・文学・文化研究を進めるうえで必要となる学術的日本語の理解力と表現力を評価する。修士課程での文献読解、論述、考察の過程において求められる文法的洞察力と体系的な日本語運用能力を確認することを目的とする。

令和 7(2025)年度 沖縄国際大学大学院入学者選抜試験

地域文化研究科 南島文化専攻 出題意図

問題4 語彙・慣用表現・カタカナ語

現代日本語における多様な語彙（外来語・慣用句・専門語）を文脈的に理解・使用する力を測る。社会的・文化的背景を踏まえて語を運用できる語用論的感覚と語彙力を評価する。修士論文や教育実践研究に必要な語彙分析力・語用研究の基礎力を確認する。

全体の出題方針（総括）

本試験全体は、南島文化に関する高度な研究を遂行するために必要な基礎的資質と学術的能力を総合的に評価することを目的とする。

特に以下の点を重視する。

- 学術的読解力：南島地域に関する先行研究や資料を正確に読み取り、主要な論点や方法論を理解する力。
 - 批判的分析力：言語・歴史・民族・芸能・社会など多様な文化現象を、理論的・比較的観点から分析する力。
 - 論述力・表現力：自身の関心や問題意識を明確にし、根拠に基づいて論理的に展開できる力。
 - 日本語運用力：学術研究にふさわしい正確で明晰な日本語による記述・表現の力。
- これらは、南島文化研究における「地域を理解し、課題を発見し、学術的に伝える」ための基礎的能力であり、修士論文執筆および研究者としての成長の礎となるものである。

【外国語科目：フランス語】

大学院の全専攻に共通するアドミッション・ポリシーとは、いわば「地域社会および国際社会に対する強い関心や、専門的な知識および技術の獲得に対する強い意志を抱き、高度な知識を理解して実践的に活用できる論理的な思考力と行動力を有する人物」となる。同アドミッション・ポリシーを確認することを意図として、設問1では、地域社会または国際社会で注目されている話題を主題とするフランス語の文章を読解し日本語訳に取り組むことを通して、地域社会または国際社会についての知識と外国語に対する理解力、日本語による表現力が問われる。また、設問2では、同じく地域社会または国際社会で注目されている話題を主題とするフランス語の文章を読解し同文章に関するフランス語の質問にフランス語で解答することを通して、地域社会または国際社会についての知識と外国語に対する理解力、フランス語による表現力が問われる。

令和7(2025)年度 沖縄国際大学大学院入学者選抜試験 地域文化研究科 英米言語文化専攻 出題意図

専門科目【言語教育学領域・英語教育学系列】 出題意図

英米言語文化専攻は、実践的な英語運用力と確かな日本語力、様々な文化的背景の理解に基づく多文化共生社会を実現していく能力、専門分野における知識や経験に加えて、他分野の知識や経験を取り入れることのできる応用力をバランスよく備えた人材の育成を目指しています。したがって、この専攻の入学希望者には言語文化・言語教育に関して強い学習意欲を持ち、グローバル社会に対応できる専門性の獲得及び教育機関における実践的・学術的指導者を目指す人物を求めています。

設問1：問1は、英語教育に関する基本的な知識を問う問題です。コミュニケーション能力の定義、学習者、指導法等、本分野に関する総合的な知識が求められます。

設問2：問2は、語学学習に関する意見についてどう考えるか、事実や研究結果、理論などの根拠に基づき、客観的に論じる能力を問い、同時に論理的思考力と文章表現能力を問う問題です。

設問3：問3は、2つのトピックから一つを選択して論述する形式の問題です。第一のトピックは、AI技術が語学教育にもたらす影響について、教育者および学習者の視点からその利点と課題を多面的に考察する力を問う問題です。第二のトピックは、バイリンガリズムの意義を個人における認知的側面と社会的側面の両方から論理的に理解し、併せてその課題についても適切に論じる力を評価する問題です。

外国語（英語）科目【言語教育学領域・英語教育学系列】 出題意図

設問1：問1は、イギリスの世界遺産ストーンヘンジに関する新説について述べたものである。解答者には、英語の語彙力だけではなく、文章全体の構成や段落のつながりを理解し、複雑な情報から真実を見抜く能力が求められる。

設問2 : 問2は、クロモセラピー（色彩療法）について述べたものである。この問題を通して、英語を正確に読み取れているか、読み取った内容を英語で的確に表現できているか、といった点を評価している。

専門科目【英米文学領域】 出題意図

設問1 : この問題は、歴史や文化を背景にした文章を理解し、内容を自然な英語で的確に要約できる力を測るものです。沖縄文学やイギリスの文学散策ツアーの例から、資料の内容を適切に整理し、伝える能力を重視しています。

設問2 : この文章のテーマは、言語に対する姿勢の柔軟性と、それが人間関係や語学学習に与える影響です。規則に縛られすぎず、対話や創造性を大切にする態度の重要性和、文化や実例を踏まえつつ理解させることを狙っています。

設問3 : この問題は英文学の専門的な知識を問う問題です。イギリスを代表する作家ウィリアム・シェイクスピアの喜劇作品からの抜粋を見て、“Oberon”や“Puck”といった登場人物名や“Love-in-idleness”(恋の三色スマイル)といったキーワードをヒントに、作品を特定できるか、登場人物の関係性や場面について説明できるか等が問われています。

設問4 : この問題は英文学に関連する専門的な論文を読解する力を測るための問題です。文章全体のコンテキストを踏まえながら論点を押さえることができるか、それに対する自身の考えを英文学の知識を踏まえつつ簡潔に述べるか等が問われています。

専門科目【日本語教育領域】 出題意図

設問1 : 設問1の用語問題は、日本語教育の理論的基盤を構成する重要概念や専門用語に関する理解を問うことを目的としています。これらの概念は、言語習得、教授法、学習者支援、評価、教材開発、教育環境の設計など、広範な教育実践において不可欠な視点となるものです。受験者がそれらの概念を正確に理解し、自らの言葉で的確に説明できるかを通じて、言語教育の専門的知識の有無を評価します。また、それらの用語が自身の教育観や研究課題とどう関わるかを意識して記述しているかも重要な評価の観点となります。

設問 2: 設問 2 の記述問題は、日本語教育分野における専門的知識と、それを実践に応用する力を測ることを目的としています。学習者の多様な背景や教育現場の特性をふまえ、適切な指導法や支援の在り方を考察できる力が問われます。また、ICT の活用やグローバル化など、社会的変化を反映した教育観を備えているかも評価対象です。理論と実践の両面からバランスよく考察し、教育現場で直面する課題に対応できる視点を論理的に示すことができるかを判断します。

令和7(2025)年度 沖縄国際大学大学院入学者選抜試験
地域文化研究科 人間福祉専攻 社会福祉学領域 出題意図

地域文化研究科 人間福祉専攻 社会福祉学領域アドミッションポリシー

- ① 社会福祉学に関する一定以上の知識と語学力を有すると認められた人物。
- ② 在職する行政機関、社会福祉施設、社会福祉協議会、医療機関等の長から推薦がある人物で、一定以上の社会福祉学に関する知識を有すると認められた人物。
- ③ 学校、教育委員会等の代表者の推薦がある人物で、一定以上の社会福祉学に関する知識を有すると認められた人物。

〔専門科目〕

今回の出題では、アドミッションポリシー①、②、③に該当するものと考えます。今日の社会福祉学における研究は、生成AIを一定程度活用しつつ、それを越えて自らの問いを立てる能力が必要です。この能力を審査するための出題となっています。

〔外国語科目〕

英語

今回の出題では、アドミッションポリシー①に該当しているものと考えています。社会福祉領域で起きているさまざまなことについて外国語（英語）での的確に情報収集していく能力を審査するための出題となっています。

令和7(2025)年度 沖縄国際大学大学院入学者選抜試験 人間福祉専攻臨床心理学領域 出題意図

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

本領域の教育目標を理解し、人間のこころに関心を持ち、幅広い視野と柔軟な思考を備え、高度な専門職をめざす、以下のような人物をもとめます。

1. 公認心理師・臨床心理士をめざす人物。
2. 心理学の基礎的知識と対人関係能力を、一定以上身につけている人物。
3. 心理学の実証的研究手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明できる力が身につけている人物。
4. 心理学的視座から現代社会における諸問題について関心を持ち、人とのつながりの中で実践的に問題を解決していくことができる人物。

〔専門科目〕

大問Ⅰ・Ⅲ・Ⅳは、アドミッション・ポリシーのうち、ポリシー2の「心理学の基礎的知識を有していること」および、ポリシー4の「心理学的視座から現代社会の諸問題に関心を持ち、理解しようとする姿勢を有していること」を評価するための問題です。特に大問Ⅰでは、心理学に関する基礎知識を単に暗記しているかどうかではなく、出題された心理学の概念を人間の生活や対人関係、臨床的な問題とどのように関連づけて理解しているかを問います。自分の言葉で具体例を挙げながら説明できているかどうか重要です。大問Ⅲ・Ⅳでは、心理学・臨床心理学の知識をより具体的かつ実践的な場面に結びつけて説明できるかを見ています。学んだ理論や概念を、臨床現場での課題や事例と関連づけて考えられているかが評価のポイントです。

また、大問Ⅱは、アドミッション・ポリシー3の「心理学の実証的研究手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけていること」を判断するための問題です。心理学研究や統計法に関する知識を単に覚えているだけでなく、**研究計画や実際のデータ解釈の文脈で適切に活用できるかどうか**が求められます。

〔外国語科目〕

アドミッション・ポリシー2・3・4を判断するための問題です。辞書を用いながらも英語の心理学論文を読み理解する力があるかどうか、また心理学の基礎的な英語のテキストを読み理解する力があるかどうかを評価することを意図しています。

令和7(2025)年度 沖縄国際大学大学院入学者選抜試験

地域産業研究科 地域産業専攻 出題意図

〔専門科目〕

経済学または経営学の基礎力・応用力の他に、地域経済、環境、情報、産業、企業などの現状と課題に関する理解や関心度と、それらを論理的に分析する能力を確認します。

〔外国語科目〕

外国語で書かれた文章の読解力を確認します。また、日頃から社会の動向に関心があるのか、経済学または経営学の基礎理論、ならびにその応用分野と関連知識に関する能力を確認します。

令和7(2025)年度 沖縄国際大学大学院入学者選抜試験 法学研究科 法律学専攻 出題意図

〔専門科目：5科目分〕

憲法： 日本国憲法において、幸福追求権、報道の自由、労働基本権などについて、基本的な概念を把握できているかの能力を測る。

税法： 前期・後期とも、当研究科のアドミッション・ポリシーの3要素を満たす人物であるか否かを判断することをねらいとして、出題しています。その中でも特に、「1. 法学に関して深い関心をもち、自ら学び研究する意欲を持っている人物」と「2. 法学の諸分野において、自らの問題意識から課題を設定して、修士論文を作成する強い意思を持っている人物」の2点を意識して、出題しています。

前期は、①租税法律主義に関する問題を中心に、憲法と税法との関係について問う問題と、②帰属所得を題材に所得税における所得の意義等について問う問題（二題）のどちらかを選択する形式としました。

後期は、①租税回避・租税回避行為の否認の意義や問題点等について問う問題と、②所得分類のうち事業所得と給与所得の区別に関する考え方等について問う問題（二題）のどちらかを選択する形式としました。

商法： 株主の権利と義務、取締役、株式と社債などを中心に、指定教科書の内容を踏まえつつ、会社法の条文や趣旨などに関連する理解度を問う。

民法： 民法：自由主義社会の基本原則とその限界を民法典の具体的な規定と関連付けて理解することができているかを問題とする。

刑法： 基本的に博士課程に進学する学生が見込めないため、学部の初年次に履修すべき専門的知識内容の理解の程度を見ている。

〔外国語科目〕

・大学院における研究に必要な基礎的な英語読解力があるかを見ると同時に、法に関する用語の理解、および、国内外における社会の動向への関心がどの程度あるかが問われる出題となっている。